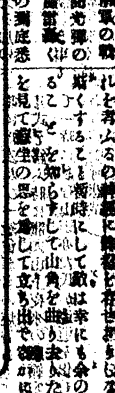


道線等
車行
虎國時登月
三號勿魯
津調候清
九九〇二
九六八六
九五六一
五五四四
五六二一
依新大
路調巧
第一
九九八一
四二〇一
換
二二五
四二七五
伊藤小廣
三川國雄

四二〇
 六九七六
 七二六
 二〇
 五八六五
 六世王
 美羅殿
 紅毛塚村
 九八八
 五四三
 一六八
 三三
 五六七七
 天小
 歌出安里
 〇〇
 五五三
 〇五三
 五五五
 五二二
 五九
 三
 軍富永餅
 湯谷飯店
 一〇
 四三
 九六
 七三
 三九
 六〇
 四九

同人

和坂肥として一回施す



るに豈計らんや、是れ敵丁餘騎

雪村入夢羅浮梅 美人贈
植家遺像藏懷梅 家好好
世外佳人若是梅 寒山

世外佳人若是梅

[illegible]

いろは文字略釋 (一) 孤岳

言の御大業にして其大國の製作と明
るは文字我國で儒教皆及に五
のあつた吉備眞備、創作と傳へたるに大
百首是我日本帝國の文學史上に於ける二
傑作である、下三千年能く恒川の意思
に遇して我國の文化を扶植し國運を伸張
する爲め國乃一大要素となり來りし効果と
此の實にこれこそ莫大なるものであ
るに其効果が莫大なるは從て此が製作者
の功が又いふようすさばるものな
らざるや

出て白いは此身勤者の一人が佛教家
として出でたのであるから後世讀者や國
人々も

東北浪

一、草海峽を隔つる稻佐の島嶼

はれし昔を忍ぶの地にありて畏
おそふき御恵の露に霑うるはふ露國の強兵旅きやく

強將ステツセルと共に俘虜とし

杖を此稻佐の地に曳きぬ。海陸

營養の不充分は總てを疲勞な

る待遇により已に甘んずして

とさ旅順半島の籠城中壓制の下

收容さるゝや我軍の寛大仁慈は

の如き將校を以て統べられたる軍

して行進するを見る毎に帽を磨く

は異ねる思想を有すと謂ふも難から

四國の中蓋とには別にシテ

●純元節と吾曹（入社に就て）
 賀田竹露

悠々古く、標題と冒頭、讀つき併、純元節の祝日に入社せる吾曹は本日より本紙購読諸賢に請する可く、光榮に浴した。されば其の刻下、に處する自己の任務として何かの拍負を開陳せねばならん、だが吾人は、を行ふに難く、現時の浮世に、徒に筆をすを以て、能事とし、た處が、貴重の新紙汚割しても、九牛一毛の得る處なしだ。さて、純元文字と並べるとの出来ざる、身傍病風に、影はれた譯でも、ながく吾曹は、自の本領と守るの上に於ては、多量に要さね、與する處は、正理と公道のみだ。然し、軍國の祝日としては、敢て吾等の美觀を取すとも、又も、怠慢すべき明治三十七年終退への悲劇に、遭遇せざるを、願ふ。同題せば、昨春の本日は、時晴、た日雲の風、破れて、宣戰の大詔は、降せられた武人、就るにつて、我に、參加し、志士、劍を、振る、と、思、更、に、特、に、喜、び、さ、れた。今、此、貴、報、因、際、總、機、關、に、特、に、寄、つ、た。云、云、本、國、本、重、要、の、明、題、は、未、だ、解決、を、見、る、低、は、して、所謂、人、心、に、因、々、として、此、祝、日、を、迎、へ、り、吾、曹、又、來、し、祝、日、を、迎、へ、る、の、日本、社、の、未、席、に、列、せ、り、略、中、希、ん、は、暇、時、も、早、く、上、は、英、華、文、武、臣、下、の、御、意、標、と、安、ん、じ、奉、り、下、は、萬、民、の、困、苦、を、救、済、する、の、一、事、を、切、望、する、の、ま、入、社、に、接、して、茲、に、一、言、附、す、事、關、。

告

印 筆
 ゴム 印
 ゴム 印
 周 刺
 金 山 治
 大 廣 堂
 文 珠 堂

支那料理 西町三丁目

-82